

### 平成 26 年度 年次大会および研修会を開催

#### はじめに

道北技術士委員会では、定例の年次大会および研修会を開催しました。当日は、北海道本部から森事務局長をお迎えし、総勢 38 名の出席となりました。

以下にその概要を報告します。

日時：2014 年(平成 26 年)4 月 12 日(土)

14:00～19:00

場所：藤田観光ワシントンホテル旭川

#### 1. 年次大会

大原代表幹事より、以下の項目について報告が行われた。

第 1 号報告 平成 25 年度事業報告および決算

第 2 号報告 平成 26 年度事業計画および予算

平成 26 年度事業計画では、北海道の役割として地域経済を活性化すること、安定した水・食料などの物資を供給すること、人道支援を通じた震災復興支援を行うことが求められる中、技術士が科学技術の各分野において積極的に対応しながら、技術士同士の連携を進め公共の安全、環境保全、その他公益の確保を踏まえて活動することが確認された。



年次大会出席者

#### 2. 研修会

演題 1：技術士を巡る最近の動向

講師：日本技術士会北海道本部

事務局長 森 隆広 氏

概要：

- (1)平成 25 年度技術士第一次試験結果
- (2)平成 25 年度技術士第二次試験結果
- (3)技術士会北海道本部の会員数
- (4)総括本部(理事会等)からの話題
- (5)北海道本部に関する話題



事務局長 森氏の講演

演題 2：ケーブルテレビの現況

講師：旭川ケーブルテレビ株式会社

常務取締役 業務本部長 五反田 英利 氏

概要：

旭川ケーブルテレビ株式会社「ポテト」は、平成 3 年 4 月より本放送を開始し、当時は 22ch のテレビ放送のみであった。現在は、TV が 80ch に増え、さらにインターネット、IP 電話のサービスも行う総合的な放送・情報通信事業を展開している。

北海道のケーブルテレビ普及率は 22%程度だ

が、東京都や徳島県など80%を超えている地域もあり、都道府県によって普及率に大きな差はあるが、全体の普及率は年々上昇していることを解説して頂いた。

同社は、旭川市内全ての小中学校および旭川近郊町村のインターネット環境(ファイヤーウォール・ルーター等)を一括管理している。また、多彩な自主制作番組を通して、暮らしの安全・安心に関する情報や市民活動情報など、地域に密着した情報を提供している。今後の展開として、さらに地域情報番組の充実、各行政機関と連携を強化しJ-ALERT等の運用も予定しているとのことである。

同社の掲げる事業目的は、地域に「貢献・密着・活性化」であり、講演を通じてケーブルテレビが地域の活性化に大きく貢献していることを理解するとともに、五反田氏の郷土をこよなく愛する想いを我々技術士も共有し、地域の発展に寄与すべく行動していかねばならないと感じた次第である。



旭川ケーブルテレビ(株) 五反田氏の講演

### 演題 3：これからの北海道の進むべき道

講師：武山事務所株式会社

代表取締役 武山 泰典 氏

概要：

北海道の現状を見ると、旧産炭地など過疎化の進む地域は、若者が地元に戻りたくても雇用の場がなく、暮らしの成り立つ都市部へ移り住む者が多い。そのような地域の再生を数多く手掛けてこられた武山氏に、世界各国を廻られた豊富な経験による視点で、これからの北海道の進むべき道について解説し

て頂いた。

北海道に生まれこの地で育った地元の人々は、北海道の持つ優位性に気づいていない。視点を変えて世界から北海道を見ると、北海道の生産物はどれをとってもその魅力は非常に高いとのこと。しかし、北海道の農業生産量は全国第8位に対し出荷額は第18位に後退し、域際収支は2～3兆円の赤字である。これは、素材のまま出荷し加工などの商品化(ブランド化)が少ないためで、商品化すると価格は10倍程度になる。商品化するには雇用も必要となり、地域の活性化につながることを解説して頂いた。

次に、航空分野についてLCCの現状を中心に解説して頂いた。欧州のLCCシェアは4割を超えているのに対し、日本は完全に出遅れてLCCに関しては後進国となってしまった。物流コストの低減および北海道の観光資源を生かすためにも、LCCのシェア拡大は必要であることを述べられた。



武山事務所株式会社 武山氏の講演

### おわりに

本年度も、さまざまな科学技術分野で活躍されている方々を講師としてお招きし、研修会を開催しました。内容の充実した、大変参考となる話題を提供していただき、参加者からも好評でした。本誌をお借りし、研修会にご協力頂いた講師の方々にお礼申し上げます。

最後に、会員皆様方の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、ご報告といたします。